

平成 25 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	建築設計製図Ⅱ	担当教員	寺下 浩 (非常勤)、鶴田佳子、平野勝雅 (非常勤)		
学年学科	4 年 建築学科	通年	必修	4 単位(学修)	
学習・教育目標	(B-2) 7% (D-4) 60% (E) 33%		JABEE 基準 1 (1) (c), (d)		
授業の目標と期待される効果： 建築設計製図Ⅱにおいては、建築単体に留まるのではなく、地域や社会をよりよい方向に向けていく為の提案性を持ったデザイン能力を習得する。具体的には以下の項目を目標とする。 1. 様々な社会的問題に対して、建築の計画を通じた提案能力を身につける。 2. CAD,CG を活用した建築表現ができる。 3. 自身で考えた計画を、他者に説明できる能力を身につける。		成績評価の方法： 各課題 100 点×3 課題 = 300 点の総得点率 (%) によって成績評価を行う。 達成度評価の基準： 各課題について 1～4 の項目について、6 割以上達していること。なお成績評価への重みは、1～4 を各 20～30% とし、4 については講評会等も行いその達成度を確認する。 1 課題の意図を理解し、的確に企画を立てられる。 2 創造的かつ整合性のとれた計画を作成できる。 3 デジタルツールを用いて的確で美しい表現ができる。 4 相手に的確に意図を伝えるプレゼンテーションができる。			
授業の進め方とアドバイス： ・課題対象地への見学会、地元住民等に対するプレゼンテーションを行う際は、積極的に取り組むこと。 ・普段から、建築やデザインに留まらず、様々な社会の情報に目を通し、自らの考えを養うこと。 ・自らスケジュールを立てて、期限内にゆとりを持って間に合うように計画を進めること。 ・CAD 室等を活用して積極的に情報機器利用の熟達に励むこと。 ※各課題の成績確定後の再提出、再評価は行わないので、それぞれの課題に真剣に取り組むこと。					
教科書および参考書： 教科書：日本建築学会編 コンパクト資料集成 (丸善) 建築関係の諸雑誌等に常に目を通し、情報を収集すること、また、建築設計製図Ⅱでは、社会性を持った課題が設定されるので、日頃から新聞等のメディアを通じて、社会や地域の状況を把握すること。					
授業の概要と予定：前期			教室外学修		
第 1 回：【第 1 課題】複合空間の計画 (担当：寺下) 課題提示、趣旨説明			各授業毎の授業進行に対応した内容 (平面図、立面図、断面図、スタディ模型など) のエスキースを適切なスケールで作成する。また、適宜各自の作業スケジュールに沿って課題の作成を行う。		
第 2, 3 回：空間の設定					
第 4, 5 回：資料の収集					
第 6, 7 回：エスキースチェック 1 (コンセプト・基本計画)					
第 8 回：エスキースチェック 2 (アイデアスケッチ、スタディ模型)					
第 9, 10 回：エスキースチェック 3 (平面図・立面図など)					
第 11, 12 回：エスキースチェック 4 (断面図・パースなど)					
第 13, 14 回：エスキースチェック 5 (プレゼンテーション)					
第 15 回：第 1 課題の講評会・フォローアップ (課題評価の解説など)					
授業の概要と予定：後期			教室外学修		
【第 2 課題】地域課題解決にむけたまちづくり計画 (担当：鶴田) 第 16 回 現地調査 第 17～18 回 現状分析まとめ 第 19～22 回 まちづくり計画の作成			授業進行に対応した内容 (現状分析、まちづくりコンセプト、まちづくり手法、まちづくり計画など) について、各自まとめ提出する。		
【第 3 課題】第 2 課題の設計への展開 (担当：平野) 第 23 回 課題説明 第 24 回～第 28 回：エスキース (計画コンセプト・建築平面図・建築立面図・断面図・詳細計画) 第 29 回：プレゼンテーションチェック			各授業毎の授業進行に対応した内容 (平面図、立面図、断面図、スタディ模型など) のエスキースを適切なスケールで作成する。また、適宜各自の作業スケジュールに沿って課題の作成を行う。		
第 30 回：第 3 課題の講評会・フォローアップ (課題評価の解説など)			—		